

新年のご挨拶

一般社団法人 全日本建設技術協会 会長

おお いし ひさ かず
大石 久和



あけましておめでとうございます。新年が、会員の皆様にとって、幸多き年になりますよう心より祈念申し上げます。また、ご家族のご繁栄をあわせてお祈り申し上げます。

昨年の新年挨拶にも、「災害の多い一年でした」と記したのですが、昨年も一昨年を上回るような災害に見舞われました。気象の凶暴化は目に見える顕著な現象となってきました。それは、わが国のことだけではありません。

アメリカでは、東でハリケーン、西で森林火災と大変でしたが、冬になった今、全土にブリザードが吹き荒れている様子が報道されています。中東の乾燥地帯を水害が襲い、ヨーロッパ各地では猛暑や豪雨に苦しみました。

こうした事象は、今後ますます厳しくなると予想しておかなければなりません。こうした気象の狂暴化が進む一方で、わが国の現在27%程度の高齢化比率は、近い将来40%になることが確実なのです。人を助けることができる人

が激減し、人に助けられなければ助からない人が急増するという悪夢のような時代が近づいています。

しかし、わが国は財政が厳しいからと、家計と財政を混同した議論に終始してきた結果、国民が貧困化するなど、失敗だったことが明確な財政再建至上主義をいまだに掲げ続けているのです。台風19号では、比較的防災施設が整備されていた南関東はぎりぎりかろうじて大被害を免れましたが、整備の遅れた千曲川、阿武隈川などでは多くの堤防が破堤してしまいました。

備えたるに憂いなしが、証明されたのです。全建に結集する官庁技術者の豊かな発想、大胆な提案が今ほど求められている時はありません。

国土強靱化施策メニューの一層の充実と、5カ年計画への格上げ、そして大胆な財政出動こそが、国民の生命財産を守るという政府（中央政府および地方政府）の役目なのだと声高に主張する年にして参りましょう。